

学びを力に、酪農の未来を創る。

株式会社 さとむら牧場 / 里村 瞳弓

経営概要

<株式会社 さとむら牧場>

- 所在地…長崎県佐世保市里美町
- 乳牛60頭、黒毛和牛10頭、交雑種子牛など合計85頭。一日の生乳生産量は1,300～1,500kg。
- チーズ工房「Fiore（フィオーレ）」…牧場が経営するチーズ工房。2024年のジャパンチーズアワードで金賞を受賞した「レジーナ」は、スパイスの女王と言われるカルダモンを加えた独自の風味が評価された。

探求心で切り拓く酪農の未来

非農家出身で結婚を機に長崎県へ来た瞳弓さん。酪農の仕事と子育てをしながら大学へ通い、卒業後は大学院に進学し農学博士を取得したという、探求心に溢れる女性である。牧場を法人化した際、学んだことを現場にアウトプットしても売り上げが付いてこない辛い時期を経験した。それを打破するきっかけとなったのは、令和6年8月から令和7年1月の半年間開催された「女性農業者のための事業推進力＆チームマネジメント力アップ研修※」だ。東京での月1回の座学に加え、オンライン研修や現地視察も。これまででは、多くを学び経営に活かせば会社や従業員が変わるとと思っていたが、「結局は自分が変わらないといけないと気付いた。」と明るい笑顔で語る瞳弓さん。一緒に受講した仲間は、日本全国から集った熱量の高い女性農業者ばかり。そんな仲間に出会えたことも嬉しかった。研修終了後も連絡を取り合い、お互いの農園の視察を行うなど常に切磋琢磨している。

※農林水産省令和5年度補正予算働きやすい環境づくり緊急対策のうち

女性の労働環境整備・活躍強化事業

男女の協働が地域農業を変える

そんな瞳弓さんを見て、夫・貴司さんは「研修から帰ってきたらその日の話を熱を込めて話してくれる。研修仲間から野菜が届くこともある。自分は顔も名前も知らないんですけどね。」とほほ笑む。「どこの農園でも奥様の力は重要だと感じる。男性の意識改革も必要で、男女一緒に同じ研修に出ることも良いのでは。内容を共有していくことは大事だと思う」。男女が互いに学び合い、支え合うことで、地域農業は持続可能な未来へ進化する。

佐世保市で酪農を営み、酪農教育ファームやチーズ製造にも取り組む里村さん。
これまでの活動やこれからの展望をお聞きしました。



女性農業者へのメッセージ

「女性も農場から一歩出てみると、新たな世界が見えると思います。また、外に出ることで自分が頑張っていることを認められるという感覚も得ることができますよ！」

牧場と地域をつなぐ、笑顔あふれる一日

令和7年4月にさとむら牧場で初めてとなる「牧場祭り」を開催した。酪農を知ってもらい、地域に貢献したいとの思いから企画。告知はインスタグラムと口コミのみだったが、当日は約1,000名の来場があった。牧場に続く道の上から下までずらっと車列が続き、盛況ぶりに驚いた。予想をはるかに超える来場者数であったが、お客様からの不満の声は「ゼロ」。足を運んでいただいた方をはじめ、イベントに関わってくださったみなさまに心から感謝する一日だった。今後も引き続き牧場祭りを開催していく予定である。

今後の展望

来年の春に牛舎を増設予定である。「業務細分化を行い、子育て世代や短時間勤務者でも働きやすい環境を整えていきたい。チーズの新製品試作にも力を入れていきたいですね」。さとむら牧場の挑戦は続く。



PROFILE

里村 瞳弓 50歳
Mutsuyumi SATOMURA

株式会社 さとむら牧場

「毎日が楽しいので忙しくても苦ではない。チーズを通して、牛乳の価値や酪農についての理解を深めてもらいたい！」

株式会社
さとむら牧場
Instagram



Check it !